

No. 97

すくらむ

2022.3.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P.1

巻頭言

「声を届ける」

P.2

- ・令和3年度 特別支援教育コーディネーター 専門研修&授業研究リーダー研修のご紹介
- ・令和4年度の研修講座について

P.3

- ・特別支援教育担当教員の資質向上に向けた 人材育成プロジェクトについて

P.4

- ・実践研究発表会の報告
- ・教育支援専門員派遣事業について

巻頭言 「声を届ける」

福井県特別支援学級・通級指導教室設置学校長会 会長 時岡 聡 氏



設置学校長会は特別支援学級・通級指導教室に在籍する児童・生徒の教育的条件の向上を図り、会員相互の研修を深めることを目的として、特別支援学級・通級指導教室の管理、運営に関する研究協議や、特別支援教育全般を含めた調査研究等の事業に取り組んでいます。

今年度の研修会は「特別支援教育の視点を活かした学校経営の在り方」というテーマで、国立特別支援教育総合研究所の 笹森 洋樹 先生に御講演をいただいたものを、オンデマンドで視聴しました。特別支援教育の視点は全ての子供たちに必要なものであり学校経営の大切な柱であること、校内体制の整備には校長のリーダーシップが重要であることなどを、改めて確認する機会となりました。

調査研究に関しては、昨年末に県内の設置学校長を対象に特別支援教育コーディネーターや個別の支援計画・指導計画に関する調査を実施しました。調査回答からは、支援を要する子供たちが増えてきたことに伴い、教員の業務が増加してきている状況が多く为学校で見られることが明らかになりました。また、そのことにより、高い専門性を持った専任のコーディネーターの配置を求める声が、校長先生方から多数聞かれました。

調査を通して見えてきたのは、個別の支援が必要な子供たちが安心して学ぶことができるように、どの学校でも先生方が苦心しながら懸命に特別支援教育に取り組まれている状況です。「個別最適な学びと協働的な学び」の実現、GIGAスクール構想の導入、働き方改革の推進等、取り組むべき課題が山積する中で、特別支援教育を学校経営の最重要課題と位置付けて取り組まれていることに心から敬意を表します。

このような中、私たち設置学校長会の使命は、インクルーシブ教育を進めるための支援体制の確立とその内容の充実を目指し、特別支援教育の教育条件向上のために尽力することだと考えています。設置学校間の連携を密にし、各学校の声をしっかりと届けていけるよう、今後も努力して参りたいと思います。

令和3年度 特別支援教育コーディネーター専門研修 & 授業研究リーダー研修のご紹介

特別支援教育コーディネーター専門研修および授業研究リーダー研修は、将来地域の核となっていく受講者が、多様な子どもたちの学びと育ちを支えるための実践を、同僚や地域の仲間と協働し進めていくことを通して、学校全体や地域が特別支援教育の力を高めていくことを目的とした研修です。今年度は、特別支援教育コーディネーター専門研修に3名、授業研究リーダー研修に2名、計5名の先生方が受講されました。年間を通した研修プログラムで、学びを深めた受講者の取組を紹介します。

【織田小 清水先生】テーマ「気がかりな子を支えるための校内支援体制づくりを目指して」

校内支援体制の充実のために、個別の教育支援計画・指導計画の活用が必要であると考え実践を進めてきました。しかし、実践を進める中で、校内における支援の共通理解が課題だと気づき、児童にかかわる複数の教師で実態や支援の共有を行い、担任を支えていきました。

【金津小 森先生】テーマ「学び合いにより、お互いの理解を深める交流及び共同学習」

児童が共に学び合い、認め合える授業を目指し、交流学級担任と協働した実践を行いました。この取組を校内全体に共有し、全職員で交流および共同学習に対する思いや願いを語り合うことで、教師の連携が深まり、双方の児童の変容につながりました。地区の研究会でも共有し、地区全体の交流及び共同学習の推進につながりました。

【奥越特支 山岸先生】テーマ「高等部の生徒を支えるために特コとしてできること」

特別支援教育コーディネーターとして、地域の中学校から本校の高等部に入学してきた生徒の事例を通し、中学校の教育相談と高等部入学後の校内支援の2つの視点から、自身の実践を振り返りました。校内においてどのような役割を果たせるのか再考することができました。

【安居小 山口先生】テーマ「校内支援体制の充実に向けた取り組み」

校内支援体制のフローチャート作成や対象児童の見立て、支援の検討を教師全員で行いました。事例検討において、見立てと支援の検討を繰り返し行うことで、校内の教師が自分事として向き合い、自学級での支援のヒントを得て、自身の指導を見直すことにつながりました。

【福井東特支 井上先生】テーマ「重度重複障がいのある子どもの主体的な表出を引き出すための取り組み」

表出の少ない生徒が、より主体的に表現できるように、受講者自身のかかわり方を映像で確認しながら整理をしました。また、若手の授業研究リーダーとして、ポイントを絞った自身の指導の映像を活用したり、協議の柱を明確にしたりすることで、教師同士が以前より活発に意見交換し合う授業研究会を行うことができました。



R4年度 研修講座

●高等学校の先生方、2年目以上の特担および特コの先生方が学べる講座を設定

No.2 発達障がいの基礎 — 思春期・青年期 —

講師 笹谷 幸司 氏
7月27日 (水)

発達障がいのある思春期・青年期の生徒の特性や支援の基本について、共生社会に向けた取り組みや、障がいのある生徒もない生徒も共に学ぶインクルーシブ教育実践推進高等学校におけるエピソードから学びます。

No.5 読み書きに困難さのある子どもへの支援

講師 井上 賞子 氏
井上 智 氏
8月8日 (月)

文字が見えるのに読めないということは、どのような障がいか、当事者の思いや願いを知り、読み書きの支援の実際や、合理的配慮について学びます。

No.7 子どもの実態に 応じた自立活動の指導

講師 吉川 知夫 氏
8月24日 (水)

小・中学校での実態把握から指導目標や、具体的な指導内容の設定に至るまでの流れ、将来を見据えた視点などを学びます。



特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクトについて

当センターでは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の「特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」事業の協力自治体として令和2年度から2年間取組を進めてきました。昨年度は、「連携・協働」に関する研修コアカリキュラム（案）の実践的検証を行い、教育、福祉分野の専門家との意見交換を重ねました。その結果を受けて、当センターの研修講座において地域で核となる特別支援教育担当教員の人材育成という視点で教育と福祉との合同研修会を取り入れることとしました。

今年度は、「教育と福祉との連携・協働の推進と特別支援教育担当教員の人材育成に向けて」というテーマのもと、福井市教育委員会と協働しながら、教育と福祉との連携の現状や課題の整理、合同研修会の在り方を検討する「教育と福祉との連携・協働検討会議」と、教育と福祉との合同研修会を実施しました。

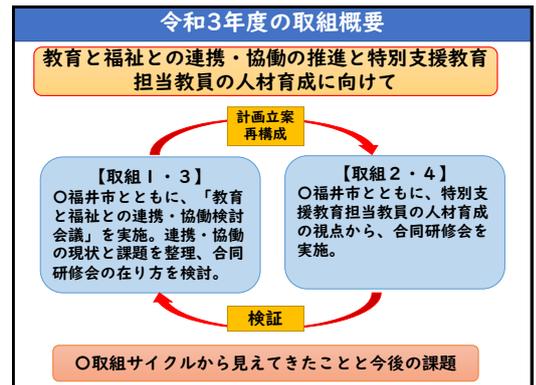
6月に実施した「第1回教育と福祉との連携・協働検討会議」では、福祉関係者から「福祉サービスを利用している子どもは増えているが、福祉のことを知らない先生が多い」「福祉のことを知ってもらうために事業所で作成したリーフレットを学校に持参している」などの課題や現状が話されました。福井県立大学の清水聡先生からは、「教育と福祉の担当者が、互いの文化を知ることが大切」「教育と福祉とが『重なりながら協働していく』関係づくりが重要」という御助言をいただきました。8月に実施した「第2回教育と福祉との連携・協働検討会議」では、教育と福祉との合同研修会を先駆的に行っている越前市の担当者を招いて取組の報告をしていただきました。

上記の連携・協働検討会議を受けて、当センターは8月に、福井市は10月と1月にとで教育と福祉の合同研修会をそれぞれ開催しました。

当センターでは、8月の研修講座「福祉と園・学校との連携」を合同研修会として実施しました。（福）足羽福祉会パステル生活支援員の高村真紀子氏を講師に迎え、午前中は「福祉サービス等の基礎知識について」の講義、午後は高村氏の事例紹介とグループ協議を行いました。受講した先生からは、「福祉サービスについて知ることができた」「チーム支援は大切だが、かかわる機関が増えると支援会議の日程調整や役割分担が難しくなる」、福祉関係者の方からは、「学校の先生とのグループディスカッションが新鮮だった」という感想が寄せられました。

福井市では、10月と1月の福井市特別支援教育地区別協議会において、「教育と福祉の連携」をテーマにオンラインによる合同研修会を実施しました。10月は、約140名（小中学校の特別支援教育コーディネーター、園の特別支援担当者、福祉関係者）が、1月は、約80名（小中学校の特別支援教育コーディネーター、相談支援専門員）が参加しました。前半は障がい福祉課から福祉サービスの仕組みについての説明がありました。後半の福祉関係者を交えたグループ協議では、「福祉と連携することで学校では見えない放課後等ディサービスでの様子が分かり、指導に活かせた」「福祉機関とどう連携すると本人や家庭をうまく支えられるのか具体的なことをもっと知りたい」などの意見交換がなされました。

教育と福祉との連携・協働の推進と特別支援教育担当教員に人材育成に向けて、今回のような連携・協働検討会議と合同研修会の取組サイクルを継続して回していくことが大切だと考えています。そして、今後、教育と福祉との連携・協働の推進に向けた取組が他の市町にも広がっていくために、当センターも継続して協力していきたいと考えます。



取組1の紹介

6月：連携・協働検討会議①

<目的> 当センターと福井市が、福井市内の福祉事業所の生の声を聞くことで、教育と福祉の連携・協働の現状や課題を知る。参加者が合同研修会の在り方について意見交換を行う。

<期 日> 令和3年6月15日（火）

<参加者> 助言者：県立大学 清水 聡教授
福祉関係者：福井市10事業所 13名
福井市障がい福祉課 2名
教育関係者：福井市教育委員会 1名
福井県高校教育課 2名

<協議内容> ①教育と福祉の連携・協働の現状や課題について
②教育と福祉との合同研修会の在り方について

取組2の紹介

8月：特別支援教育センター 研修講座No.4「福祉と園・学校との連携」

<主 旨> 午前の部・・・福祉に関する基礎的知識と、園・学校とつながる福祉の役割について学ぶ
午後の部・・・園・学校と福祉がどのように連携していけばよいか、実際の事例を通して学ぶ

<対 象> 2年以上の特別支援学級担任および特コ

<期 日> 令和3年8月6日（金）

<講 師> （福）足羽福祉会パステル 生活支援員 高村 真紀子氏

<参加者> 小学校10名 中学校2名 特支校2名 福祉事業所1名

<講座内容> 【AM:講義】 「福祉サービス等の基礎的知識について」
【PM:グループ協議】 「福祉と園・学校との連携事例から学ぶ」

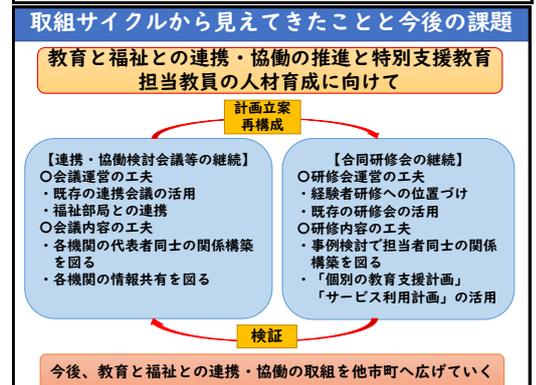
取組4の紹介

1月：福井市特別支援教育地区別協議会特別支援教育研修会の取組 <研修テーマ> 「教育と福祉の連携について②」 [遠隔で実施]

専門委員：小中委嘱特コ 特別支援学校特コ 福祉関係者 学識経験者
医師 市関係者（障がい福祉課、子育て支援課、健康管理センター）
→ファシリテーター
参加者：小中学校75校 特別支援教育コーディネーター
福祉関係者（障がい者基幹相談支援センター、発達障害相談支援事業所
児童発達支援センター）→それぞれの事業所の相談支援専門員

同日に障がい福祉課主催の相談支援専門員連絡協議会も兼ねる

目的：【学校】 移行支援に向けて小中学校での情報共有の場合は、既存の地区別協議会として実施する
学校に直接関わる「相談支援専門員」についての実際を知る
【福祉関係】 学校間での移行支援がどのように行われているかを知る
相談支援専門員との連携の好事例から、個々の課題等をつかむ



実践研究発表会の報告

令和4年2月9日(水)実践研究発表会を開催しました。今年度も当センターと参加者を遠隔システム(Microsoft Teams)でつないで実施しました。テーマ「特別なニーズのある子どもを支える～連携や協働を通して～」のもと、家庭との協働、特別支援学校と福祉事務所との連携、校内支援体制を整備する取組、医療的ケア児について複数の機関と連携した取組、高校通級と校内における連携、学校におけるチーム支援、についての実践報告がなされました。園、学校、関係機関など100名を越える方々のご参加をいただきました。当日は、それぞれの実践発表のあとに、チャットで質問や意見を募集し発表者から答えていただきました。最後に、福井大学連合教職大学院の荒木良子氏、笹原未来氏、小嵐恵子氏、南雲敏秀氏からご高評をいただきました。

参加者の声

オンライン開催であることで参加しやすく、各実践や大学の先生方からの助言を聞くことで、様々な状況を知ることができて有意義な時間だった

【福井佼成幼稚園】

「改めて、子どもと保護者の困り感に丁寧に慎重に寄り添っていく大切さを実感した」「園は療育の場ではないという新しい視点をいただいた」

【こぶし園・福井東特別支援学校】

「生徒の安心した学校生活を支えるための枠組みや関係作り、切れ目ないチーム支援など、気がかりな生徒への対応において参考になることがたくさんあった」

【福井市安居小学校】

「気がかりな児童には、個別対応や取り出しの支援を考えがちだが、通常の学級でできる支援はないのか、そのためには複数の教員での見立てが必要なのではないかという視点が素晴らしかった」

【越前市南越中学校】

「医療的ケアを必要とする生徒本人や保護者の願いを大切にしながらどう支援していくか、外部機関との連携の仕方などとても参考になった」

【奥越特別支援学校・大野高等学校】

「自分の思いを表現でき、好意的な反応をもらえるという成功体験があらゆる面での推進力になると再認識した。教職員と生徒とのかかわりが密接なよい環境が整えられていると感じた」

【特別支援教育センター】

「担任と支援員の関係性や役割をしっかりと見直すことができた。管理職との連携など校内の支援体制づくりの参考にしたい」

教育支援専門員派遣事業について

「支援体制専門員設置の目的とその役割」

これまで県は、平成29年度から令和元年度までの3年間「教育支援専門員」を置き、県内全ての公立小中学校を訪問する学校支援事業を行ってきました。この取組を通して、校内支援体制整備や個別の指導計画作成状況が変容し、個に応じた支援や配慮の重要性が認識され、学校における特別支援教育推進の一助となったと思います。そして、特別支援教育に係る各学校の現状をタイムリーに学校と市町・県教育委員会(以下、教委)が共有し生かすこと、特別支援教育コーディネーターおよび管理職が特別支援教育に係る取組や現状・課題を積極的に学校内外で情報交換すること、これまで以上に特別支援教育の取組を地域社会に発信すること等の課題も明らかになりました。

そこで県は、令和2年度より5か年計画で市町教委を中心とした地域における特別支援教育に係る支援体制強化を目的に「支援体制専門員」を置き、特別支援教育に関する支援体制充実事業を開始しました。初年度は鯖丹地区(鯖江市と越前町)を対象地区として本事業を推進しました。そして、2年目の本年度の対象地区は坂井地区(あわら市と坂井市)でした。本事業での支援体制専門員の役割は、市町教委の指導主事と共に小中学校を訪問し、協働して校内支援体制に関する学校の課題を整理し助言すること、市町教委の就学に係ることに対する助言を行うこと、市町教委が開催する特別支援教育に関する研修会や研究会におけるスーパーバイザーを担うこととしました。

この支援体制専門員の具体的業務として、地域における支援体制強化のために、①学校支援のバックアップ、②市町教育支援委員会の運営協力、③市町の課題に対する柔軟な対応、さらに、地域における研修体制充実のために、④特別支援教育に関する研修会の運営協力、以上の4項目を掲げました。

支援体制専門員 石井喜和

センターだより

すくらむ 第97号

発行日 令和4年3月1日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846
福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776) 52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>